

「いのち」の教育実践事例

生命の継承の
大切さに
関する教育

☆鶴岡市立大山小学校の実践

— 「大豆100粒運動」大豆と一緒に大きく成長 —

大山小学校では、大豆の種まき、栽培、観察、収穫、調理、加工、食す、継承といった一連の活動を通し、食料の自給、食の大切さ、安全性、食文化などについての学習に取り組んでいます。



- 春**：2年生が昨年育てた大豆を、1年生にプレゼント。
- 6月**：地域の先生に大豆の植え方を教えていただきながら、「早く大きくなってね。」という気持ちを込めて、畑に大豆の種蒔き。毎日の水かけをがんばり、みんなで成長を見守る。



○**夏**：大豆は子どもたちの背丈ほどに育ち、しっかりと根を張り、たくさんの実をつける。「枝豆って、大豆の子どもだったんだ。普段、枝豆として食べている豆と味噌や納豆の豆が同じ豆だったなんて…」自分たちで育てたからこそその驚きと発見。



- 秋**：みんなで大豆を収穫。収穫した大豆を使って「きなこ作り」大豆をフライパンで炒ったら、とってもいいにおい。ミキサーにかけてできあがり。お餅にかけて食べたよ。
- 「春になったら、新しい1年生にこの種をプレゼントしよう。」子どもたちは大豆の命をつないでいくことを楽しみに、小さな大豆の一粒とともに、子どもたちも大きく成長。小さな一粒が大きな実りを与えてくれる。



☆酒田市立浜田小学校の実践

— 人権と公益を学び、他者との関わりを大切に生きる —

浜田小学校では、「人権の花」運動に参加しました。人権擁護委員と酒田市まちづくり推進課の方々のご指導のもと、ベゴニアの花を植えました。花を自分の手で植え、育てる体験を通して、命の大切さを感じ、思いやりの心を育むことを目的に活動しました。花を育てた後、人権擁護委員の方々から表彰と講話をして頂きました。花を大切にしたように、友達を大切にすること、自分の命を大切にすることを教えて頂きました。

12月には、東北公益文科大学の学生による「公益の授業」を受けました。身の回りにいる人への思いやりの心を大切にして、まずは自分の身近な人のためにできることを考えました。



花を植えたプランターに自分の名前を貼って、交代で水やりをして育てました。

自分にできる「公益」を考え、公益の木に貼って掲示しました。

○「人権の花」運動

(児童の感想より)

- 素手で花を植えたのは初めてで、この花を大切にしていきたいと思いました。水やりもがんばりたいと思いました。

○「公益の授業」

(児童の感想より)

- 自分にできる事は、あいさつやお礼を言うこと、人のために手伝ったりすることです。僕には当たり前のことのできないこともあるので、できることを増やしていきたいです。

